

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
目次 31	7 7 7 12 12 13 123 91 89 45 7 7 7	習志野町の発展と 沖積が積もっている(図1・2)。 図1・1の分布図では、 熱ルミネッサンス法 貝層の断面(加曾利塚) 研究報告『春成論文』 (春成秀爾「祭祀」) 竜角寺古墳群 国分寺台古墳群 4はおそらく第二段目の 了海聖人(愛知県豊田市如意寺感) 了海聖人(東京都港区善福寺感) 鶴田禮司家 (右のほか、494頁図24、510頁表23、 それぞれの所蔵者名にあり)	津田沼町の発展と 沖積が積もっている(図1・1)。 図1・2の分布図では、 熱ルミネッサンス法 貝層の断面(加曾利塚) 研究報告『春成論文』 (春成秀爾「祭祀」) 竜角寺古墳群 国府台古墳群 4はおそらく第一、二段目の 了海聖人(東京都港区善福寺感) 了海聖人(愛知県豊田市如意寺感) 鶴田禮司家 681頁表(e)、684頁表16	882 867 865	2 7 5	千葉線は大正九年(一九二〇) 社長本・田貞次郎に提出した。 日本の民間航空のパイオニアと して知られる奈良原三次は、明治 四四年(一九一〇)奈良原式飛行 機を完成させるとともに、民間飛行 機操縦士の養成に努めた。奈良 原の下で飛行機の操縦技術を身に つけた白戸栄之助は、水上飛行機 の操縦に手を染め千葉県稲毛の海岸 に格納庫を作った練習を開始した。 これが稲毛飛行場の始まりであり、 以後同地は日本の民間航空にとっ ての重要な拠点となった。	千葉線は大正一〇年(一九二一) 社長本・貞次郎に提出した。 日本の民間航空のパイオニアと して知られる奈良原三次は、明治 四四年(一九一〇)五月下旬、奈 良原式二号機で産民間機として 初飛行機に成功した。翌年それ まで使用していた所沢陸軍飛行場 が軍用機の増加とともに手狭になっ たため、千葉県稲毛の海岸に稲毛 飛行場を開場し、白戸栄之助をは じめとして、民間飛行機操縦士の 育成に努めた。以後同地は日本の 民間航空にとっての重要な拠点と なった。
854	7	第三節 習志野町の発展	第三節 津田沼町の発展	1036 1033 1003 980 887 885 884	分執筆 4 12 17 3 6 2	小倉博 第三編 第四章 第一・ 第八節	小倉博 第三編 第五章 第一・ 第八節
820 798 638 595 581 566 541 512	図 2 6 16 12 5 9 4 11	東金街道現況(藤崎) 売値をつり下げたり 六カ村に替わって御用芋の述べて おり、「二」納入を引き受けるに 、自分達だけで新しく(未公認 の)株仲間を結成し、薩摩芋問屋 などと言っている」と四ヶ村」と 先の六ヶ村が明らかに異なる立場 にいたことが分かる。 鶴田禮司家の住宅 しかし図28で分かるように、 書上帳(Ⅱ二五)によると、 例にとると「賊漁」式百束 北印幡沼と南印幡沼に分かれて 肥後藩士佐々木直武 明治天皇の御大喪に 。昭和六年以前の「小麦」と「米」 点線とする	千葉街道現況(谷津) 売値をつり上げたり 六カ村に替わって御用芋の納入を 引き受けるに共に、自分達だけで 新しく(未公認の)株仲間を結成 し、薩摩芋問屋などと言っている」 と述べており、「二四ヶ村」と先 の六ヶ村が明らかに異なる立場に いたことが分かる。 鶴田禮司家の住宅 しかし図33で分かるように、 書上帳(Ⅱ二二九)によると、 例にとると「鳥賊」式百束 北印幡沼と西印幡沼に分かれて 肥後藩士佐々木直武 昭憲皇太后の御大喪に のグラフを入れかえる 大正一〇年と昭和元年を結ぶ線を	883	写真 13 8	稲垣和足 大正四年(一九一五)二月、伊藤 音次郎は稲毛海岸の一角に合資会 社伊藤飛行機研究所を設立した。 資本金は一〇万円で、飛行機の製 作・修理、同部品の製作・販売 及び航空タクシーなどを主な営業 種目としていた。	稲垣和足(とまり) 伊藤音次郎の年譜によると、大正 四年(一九一五)一月、伊藤音次 郎は稲毛飛行場内に伊藤飛行機研 究所を設立した。大正一〇年には 資本金が二万五千円の合資会社 部品の製作・販売などを営業種目 とし、将来的には航空タクシーの 営業もめざしていた。
507 506 451	写真 16 8	東金街道現況(藤崎) 売値をつり下げたり 六カ村に替わって御用芋の述べて おり、「二」納入を引き受けるに 、自分達だけで新しく(未公認 の)株仲間を結成し、薩摩芋問屋 などと言っている」と四ヶ村」と 先の六ヶ村が明らかに異なる立場 にいたことが分かる。 鶴田禮司家の住宅 しかし図28で分かるように、 書上帳(Ⅱ二五)によると、 例にとると「賊漁」式百束 北印幡沼と南印幡沼に分かれて 肥後藩士佐々木直武 明治天皇の御大喪に 。昭和六年以前の「小麦」と「米」 点線とする	千葉街道現況(谷津) 売値をつり上げたり 六カ村に替わって御用芋の納入を 引き受けるに共に、自分達だけで 新しく(未公認の)株仲間を結成 し、薩摩芋問屋などと言っている」 と述べており、「二四ヶ村」と先 の六ヶ村が明らかに異なる立場に いたことが分かる。 鶴田禮司家の住宅 しかし図33で分かるように、 書上帳(Ⅱ二二九)によると、 例にとると「鳥賊」式百束 北印幡沼と西印幡沼に分かれて 肥後藩士佐々木直武 昭憲皇太后の御大喪に のグラフを入れかえる 大正一〇年と昭和元年を結ぶ線を	883	写真 16 11 9	白土に続いて、 今宮町。 奈良原の夫人。 明治45年稲毛海岸で飛行中の鳳号 稲垣和足 大正四年(一九一五)二月、伊藤 音次郎は稲毛海岸の一角に合資会 社伊藤飛行機研究所を設立した。 資本金は一〇万円で、飛行機の製 作・修理、同部品の製作・販売 及び航空タクシーなどを主な営業 種目としていた。	白戸に続いて、 今宮町。 奈良原の夫人。 明治45年所沢陸軍飛行場で試験飛 行中の鳳号 稲垣和足(とまり) 伊藤音次郎の年譜によると、大正 四年(一九一五)一月、伊藤音次 郎は稲毛飛行場内に伊藤飛行機研 究所を設立した。大正一〇年には 資本金が二万五千円の合資会社 部品の製作・販売などを営業種目 とし、将来的には航空タクシーの 営業もめざしていた。
336 282 281 137 123 123 91 89 45 7 7 7	図 64 図 64 図 53 図 52 図 24 12 9 2 1	了海聖人(愛知県豊田市如意寺感) 了海聖人(東京都港区善福寺感) 鶴田禮司家 (右のほか、494頁図24、510頁表23、 それぞれの所蔵者名にあり)	了海聖人(愛知県豊田市如意寺感) 了海聖人(東京都港区善福寺感) 鶴田禮司家 681頁表(e)、684頁表16	882 867 865	2 7 5	千葉線は大正九年(一九二〇) 社長本・田貞次郎に提出した。 日本の民間航空のパイオニアと して知られる奈良原三次は、明治 四四年(一九一〇)奈良原式飛行 機を完成させるとともに、民間飛行 機操縦士の養成に努めた。奈良 原の下で飛行機の操縦技術を身に つけた白戸栄之助は、水上飛行機 の操縦に手を染め千葉県稲毛の海岸 に格納庫を作った練習を開始した。 これが稲毛飛行場の始まりであり、 以後同地は日本の民間航空にとっ ての重要な拠点となった。	千葉線は大正一〇年(一九二一) 社長本・貞次郎に提出した。 日本の民間航空のパイオニアと して知られる奈良原三次は、明治 四四年(一九一〇)五月下旬、奈 良原式二号機で産民間機として 初飛行機に成功した。翌年それ まで使用していた所沢陸軍飛行場 が軍用機の増加とともに手狭になっ たため、千葉県稲毛の海岸に稲毛 飛行場を開場し、白戸栄之助をは じめとして、民間飛行機操縦士の 育成に努めた。以後同地は日本の 民間航空にとっての重要な拠点と なった。